

令和4年度 学校評価の自己評価

各評価項目において、職員・生徒・保護者のアンケートの結果をもとに、自己評価を行う。自己評価は、実践目標に対する達成状況とする。

達成状況	A……よくできた	(4.30以上)
	B……できた	(3.70以上)
	C……あまりできなかった	(3.00以上)
	D……できなかった	(3.00より小さい)

※アンケートの数値は5点満点である。詳細は職員会議資料を参照。

評価項目		実践目標	アンケート 平均値		自己評 価	前年 度
家庭や地域への情報発信	職員	学校のホームページ・学年通信、クラッシィを通じて学校の情報を家庭や地域に情報発信し、学校への理解を推進する。	4.30	4.07	B	B
	生徒	学校のホームページ・学年通信などを通じて、学校の情報を知ることができる。	4.12			
	保護者	学校はホームページ・学年通信などを通じて、学校の情報提供を十分にしていると思いますか。	3.80			
学校施設や教育資源の地域への開放	職員	オープン・ハイスクール、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進している。	4.50	4.22	B	B
	生徒	学校はオープン・ハイスクール、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進している。	4.33			
	保護者	学校はオープン・ハイスクール、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進していると思いますか。	3.82			
基本的な生活習慣の確立	職員	挨拶を励行し、時間や校則を遵守させる。交通安全教育を行い、登下校マナーを指導する。	4.67	4.67	A	B
心のサポートシステム	職員	生徒の内面理解や指導方法に関する研修会を実施し、教員の意識改革・資質向上を図る。	4.36	4.17	B	B
	生徒	学校は個人面談や声かけを行い、悩みなどの相談に応じてくれる。	4.26			
	保護者	学校は個人面談や声かけを行い、子どもの共通理解と支援を図っていると思いますか。	3.88			
心のサポートシステム	職員	自殺予防につながる教育プログラムを開発し、実践する。	4.39	4.39	A	B
進路指導体制の充実	職員	3年間を見据えた計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施し、進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対策を検討する。	4.47	4.23	B	B
	生徒	学校は、進路に関する情報を提供し、進路意識を高め、進路実現に努めている。	4.33			
	保護者	学校は進路に関しての講演会・「進路の手引き」等、進路に関する情報提供を適切に行っていると思いますか。	3.88			
進路に対応した学力養成	職員	早朝補習・放課後補習・長期休業中補習、小テスト等を実施し、必要な学力の向上を目指す。	4.33	4.33	A	B
	生徒	学校は補習、小テスト等を行い、学力向上に努めている。	4.33			
新型コロナウイルス感染症予防対策	職員	学校では、教室の換気や手指消毒、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。	4.43	4.27	B	B
	生徒	学校では、教室の換気や手指消毒、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。	4.36			
	保護者	学校では、教室の換気や手指消毒、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っていると思いますか。	4.01			
基礎・基本の定着	職員	学習習慣を身につけさせ、基礎基本の定着を図る。朝のSHR前の学習活動「朝学」、ポートフォリオノート、学習用システム手帳の利用など、習慣づけ、振り返りによって個に応じたペースでの取り組みを図る。	4.25	3.72	B	B
	生徒	学校は、家庭学習を定着させるように指導を行っている。	3.91			
	保護者	お子様は、家庭学習の時間を十分に確保していると思いますか。	3.01			

指導形態・評価方法の創意工夫	職員	習熟度別授業や少人数指導などを実施し、個に応じた指導を行い、評価方法についても工夫する。	4.39	4.29	B	B
	生徒	習熟度別授業や少人数指導など、個に応じた学習を実施している。	4.19			
自主的・実践的な活動の活性化	職員	学校行事などで、生徒の主体的な活動が行われている。	4.29	4.23	B	B
	生徒	学校行事には本校の特色やよさが表れている。	4.17			
文化・スポーツ活動の推進	職員	部活動の加入を奨励し、部活動を活性化させる。	4.29	4.32	A	B
	生徒	学校では部活動が活発に行われている。	4.60			
	保護者	学校では部活動が活発に行われ、お子様の健全な成長に役立っていると思いますか。	4.07			
人と環境類型の推進	職員	成果発表会、まちづくり協議会及びその活動への参加、類型説明会など、積極的に取り組んでいる。	4.56	4.56	A	A
ICT教育の推進	職員	ICT機器を効果的に活用した授業づくりに積極的に取り組んでいる。	4.14	4.09	B	A
	生徒	学校ではタブレットなどのICT機器を有効に活用した授業が行われている。	4.04			

<自己評価などを踏まえた学校評議員の意見・感想など>

・人と環境類型(以下「ひとかん」)の生徒の活動が素晴らしい。挨拶の励行など厳しくご指導されているが、これも明石清水の伝統の一つである。進路指導においても就職や公務員、大学・専門学校への進学など多岐にわたる中で生徒と真摯に向き合っておられる。増減のマイナスは目につくが、プラスも多く、生徒・先生が非常に頑張っている印象を受ける。18歳で成人になるので、メディアで報道されていることやSNSで知ったことが100%事実でないということを生徒さんに理解してほしい。

・評価が4.0以上になっているということは、生徒が満足しており顧客満足度が高いとしてよい。周りの保護者から明石清水高校に子供を入学させて良かった、という言葉しか聞いたことがない。ICT・タブレットについてマイナス評価があるが、先生方も試行錯誤しながら、何とかしなければいけないと考えており、意識の高さがうかがえる。

・ICTでのマイナス評価については、コロナ禍で登校できない期間にリモート授業を多く行っていたが、対面授業ができる現在では、あまり活用されていないと感じているからではないか、と推察した。世間一般ではリモートで会議などを普通に行っている現状の中、ICT・タブレットをさらに活用できるはずである。先ほどのひとかん生が制作した動画を見て、若者は普通にタブレットを使いこなせていると感じた。今後の先生方のICT活用に期待したい。進路については一時期低迷していたが、昨今の進路状況を見るとそのような懸念は払拭されている。「ひとかん」の成果発表会がとても良かった。新しいインターンシップ先を紹介したいと考えている。

・「ひとかん」の生徒が今年始めてインターンシップでまちづくり協議会に参加してくれた。インターンシップ後もまちづくり協議会の活動に参加してくれた。先日は、小学生の勉強会に「ひとかん」生が来てくれたが、小学生はとてもいい笑顔になり、いつも以上に前向きに勉強に取り組むようになった。子供にとって高校生は宝である。今後は小・中学校とタブレットを使いこなしている生徒が高校に入学してくるので、先生方には大変ではあると思うが頑張してほしい。